

# 令和2年度 自己評価結果

湯沢若草幼稚園

## 1、 本園の保育方針

- 一人一人の子どもの実態を把握し、心に寄り添いながら人として生きていくための基盤となる力を育む保育の実現を目指す。
- 家庭や地域との連携を密にし、子育ての大切さや楽しさを共有しながら、子どもの健やかな成長の手助けをする。

## 2、 本園の保育目標

- 心身ともに健康で明るい子
- 思いやりの気持ちをもって友だちとかかわる子
- 好奇心や探究心をもって意欲的に取り組む子
- 自然に親しみ、不思議さ、命の大切さを感じる子

## 3、 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づいた教育・保育課程を編成している。年間指導計画は期ごとに幼児の実態に応じて見直しを図り、次年度につながるようにしている。学年ごとの最終の姿を明確にして就学に向けての成長を見据えて保育にあたっている。
II 保育の在り方・子どもへの対応	毎月開く年齢別会議や職員会議、日々の打合せの中で気になる子どもやクラスの様子を伝え合うようにしている。今年度は園内研修の在り方を見直し、一人一人が研修テーマを考え、問題意識をもって取り組むことにより、保育の見直しにつながった。クラス単位ではなく全園児を全職員で見守る体制を整えている。 子どもへの対応は一人一人に寄り添いながら、その子どもたちの輝く笑顔を保障するために、職員間での共通理解が図られるよう努力している。
III 専門家としての資質	園外研修・園内研修を通して一人一人の専門性を高められるよう努力している。(今年度は、コロナウイルス対策により、ほとんどの研修が中止される。) 保育の専門家として、誇りと自覚をもった言動を心がけ、責任のある立場で子どもたちの成長を感じ共に喜び、子どもたちと共に成長できるように考えながら保育にあたっている。 保育に支障をきたすことがないように、職員間での連携を図っている。
IV 保護者への対応	毎月発行する園だよりやクラスだより、ホームページなどを通じて情報発信に努めている。保育相談を通して子どもの育ちを共有し家庭、園が協力し連携していくことが子どもの育ちへとつながっていく。小さなことでも見逃さずに家庭に伝えていくことが信頼を得る第一歩となる。しっかりした対応をすることに努めている。

V 地域とのかかわり	地域に開かれた園を目指すべく、毎日の園庭開放や月2回の未就園児への園開放などを実施しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、中止。敬老の日に寄せて年長児が、日頃の感謝の気持ちを伝えるべく、町内会長さんにお菓子を届ける。
------------	--

#### 4、 今後取り組むべき課題

##### I 保育の計画性

子ども自らが試行錯誤しながら遊べる環境づくりを進めていきたい。職員全体が園の方針や教育目標に基づいた保育計画の立案・計画に基づいた保育の展開ができるよう質を高めていきたい。

##### II 保育の在り方・子どもへの対応

ほぼできているとの結果である。子どもの目線に立ち、内面理解をしていくことは、私たち保育者にとって基本的なことである。それが疎かにならないように、その年齢に経験させるべきことを体験できるような保育が必要である。

職員会議や園内研修で園児の実態把握に努め、職員全体の指導に一貫性がもてるようにしていくことの必要性を感じる。

##### III 専門家としての資質

一人一人がその専門性を高めるために、日々努力している。今後も保育者としての資質を高めるべく園外研修に出向いたり、園内研修を行ったりして質の向上を図りたい。

一人一人が保育者としての意識をしっかりともち、自分は何の分野での専門性を高めていくかを明確にしていくことが大事であると思われる。

##### IV 保護者への対応

信頼関係を築くべく努力していると思われる。明るい笑顔、挨拶は園の評価にもつながっていくので一人一人が“園の顔”としての意識をもって対応していくことが大切である。

保護者だけでなく、地域住民、外部からの訪問者など、誰にでも明るい笑顔で対応していくことが園児確保にもつながっていく。

##### V 地域とのかかわり

今年度はコロナウイルスの影響で地域住民とのかかわりをもてなかった。来年度は、形を変えてできればいいと思っている。今後も地域に開かれた園を目指していきたい。